

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	天文班報 : 班報
Author(s)	満尾, 壽男
Citation	龍南, 2 5 4 : 8 5 - 8 8
Issue date	1944-06-15
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8583
Right	

狀を窺ふに、その革新未だ充分の完成を見不申、必ずしも我らが樂觀を許す間敷き趣に候事、もとより惣代在任中、墮眠を貪り居候身の無責任に、後悔の徒らなる臍を嘲むの次第に候得共、然れ共、又残りて習學寮を守らるゝ諸兄の御奮起に俟ちてその挽回を願ふの不甲斐なきを敢てせずんば堵んど得ざる心中、克く御察し被下度候、今や我寮は惣代幹事諸兄の健在なりと雖も、畢意寮を動かすは寮生諸兄の協力に存するものに候、諸兄既に生を習學寮に享け、寮に學ぶ限り、克くその寮生活に徹底せられよ、諸兄が寮に生活して、寮に關心なきは、則ち諸兄の自殺に等しかるべく、そは又、龍南人として、畏れ多くも、大君に對し奉る、不忠の儀と御記念あれ、寮生活こそは諸兄の生命そのものに御座候へば、常に寮を愛ひ、寮を愛さるべくと存候、常に愛して之に不満あらば、諸兄自ら満足なる寮生活を築かれよ、而して寮は行の道場に候、起床し、洗面し、禮拜し、食事し、入浴し、勉學し、議論し、就寢する悉く、日本人としての、龍南人としての行に非ざるは無之候、行なれば即ち苦、須らく惣代幹事を中心として、四百の同志あらゆる妥協同情を排し、自らに對し、友に對して飽くまでも嚴格なる愛の鞭をふるひ、以て苦しくも亦美はしき行の一路を邁進被下度候願致居候、斯くしてわが習學寮は友情の泉、尊皇の牙城にして、その光榮の永劫に朽つるなく、祖國亦危きを知らずといふものにて候又々愚もつかぬ説教を並べし段御海容被下度候

最後に不相變の駄作數首を親愛なる寮生諸兄に捧げ、諸兄の御奮勵と、習學寮の彌榮を祈りつゝ、擱筆仕候

武夫原に生き武夫原に死すといふ杜の男の子らいざ歌へかし
秋の月靜かに澄みてことはに亂るゝ勿れその杜の上に
美はしの珠し求めつ苦の淵にさまよう魂に幸あれよかし
十二月二十四日伊勢の故郷にて
加田 勉
習學寮生諸兄机下

この手紙を讀んで私は彼との別れを思ひ起す。驛頭に於ける武夫原と海ゆかばの歌に送られつゝ、熊本を立つた彼、上熊本まで同乗した惣代の手を各々握つて、じつと握りしめた彼の手、じつと見返す目、その目には薄すらと涙さへ浮んでゐた。しつかりやつてくれ反對に勵まされて唯頷いただけ。加田もそれ以上は何も云はなかつたが、彼の手のぬくみ、それは常に私の心を勵ましてくれる。我々は常に加田と共にやつてゐる。嚴格なる愛の鞭、それこそ男と男の交際である。

班 報

天文班報

理二ノ五 滿尾 壽男

昨十八年度は天文班をして一大飛躍の歴史を作らしめた。從來

幾多同好の先輩より眞摯な研究の精神を傳承され來つた天文班も、昭和九年頃誕生した科學同好會の一班として、其の存在を公にし、天文班として獨立したのは昭和十五年の事であり、多少の變遷の後昨年より他の運動部と肩を並べ龍南に於ける現在の位置を獲得するに至つた。

夫天文學は人類自然の學問である。太古人類の創立と共に生を承けた學問は天文學に他ならない。然して爾來四五千年連續として絶ゆる所を知らず。その間幾何學を始め近代數學を生み、天體力學を第一に次々と新しい物理學の分野を開拓し、原子物理學・原子核物理學・相對性論・宇宙線等と近代科學の最前線を闊歩する現狀である。實に天文學は人類の學であり永遠の學である。されば我が龍南に於ても其の研究の始まる時期を知らず。天文班、それは新しく獨立したと雖も、古き傳統、即眞摯な研究心を有する歴史ある班である。將又天地と與に永久なる班である。假令部としての獨立は無くとも、班として多數の同好の士により人類有る限り龍南存する限、永續され行く班である。

近來、我が班では毎年後繼者たるべき人物を見出すは可なるも、班員の少い事、全龍南人の文化的教養の低落を切實に感ずる。特に一年諸氏に於て然り。宜しく一年生諸氏の發憤興起を待つや切なるものあり。

昨年の我が班の活躍は、毎日五時頃迄、器材(六分儀・經緯儀等)の取扱。天文學講座、星座研究等の初歩より漸次その歩を進め、圖計算、日時計成作グラフ、星座作圖等の實習、各自獨特の専門(太陽・流星・變光星・遊星等)の研究發表、天

體觀測等深遠なる時望の世界へ突入して行つたのである。その間諸々なる天界の現象に恵まれ、日食月食とその觀測陣に凱歌は舉つたのである。

昨年二月五日朝霜を踏んで高工屋上にて日の出を待つ。地平線から出るのは七時十分なるも、山のために豫定より十數分後れ、七時二十一分、高工屋上よりみて東二十餘度南寄り、上益城郡袴野方面の山頂より虧けた太陽の右の尖端が、ついで左の尖端が現れ徐々に山を離れてゆく、此時の食分は既に七分に達してゐた。やがて食甚は七時廿八分、六分儀で觀測の結果食分は七分五厘で豫想通りであつた。次に高工屋上に引上げて五高正門前に十五糎反射望遠鏡を据つけて、直徑十五糎程の太陽像を作り復圓の觀測にかゝる。豫想の時刻は八時三十一分。食分は次第に減じてゆくが殘念ながら授業のため觀測不能。後で池田教授に聞けば八時三十一分三秒太陽面上左下の點で黒い月は太陽を離れたとの事である。當日は天候に恵まれ、太陽の高度が低い爲大氣による太陽像の縁邊の動搖大にして觀測の不便困難は感じたが、池田教授の御指導下、班員の努力により、十分なる結果も出て成功裡にその幕を閉じた。然して、以後今年七月二十日の金環食の部分食の觀測準備を整へてゐるのである。

次で昨年八月十六日盂蘭盆の部分月食である。當日は丁度休暇中の事で、各地に分散し觀測を行つた。特に一班は佐世保の勤務奉仕中、晝間の勞働にも屈せずして、交替徹夜觀測を舉行、凱歌を奏した。當夜は巻層雲ありたれど食始まりてより甚しく好調、皎々たる月は次第に光芒衰へ食甚四時二十八分頃になれば全天か

時	間	比 較	光 度	平 均 光 度	観測者
19	00	a 2V8 b	2.32	2.32等	H
〃	〃	β Cas6V4 β Ari	2.60	2.60	K
19	20	γ And6V4 ϵ Per γ And8V2 ζ Per γ And7V3 γ Per ϵ Per5V5 β Tri α Ari6V4 δ Per	2.64 2.77 2.82 2.49 2.76	2.70	M
20	00	a 4V6 b	2.74	2.74	H
〃	〃	β Ari8V2 ζ Per	2.87	2.87	K
20	30	γ And5V5 γ Per γ And9V1 ζ Per ϵ Ari9V1 β Tri ζ Per5V5 γ Per ϵ Per8V2 δ Per ϵ Ari7V3KPer β Ari6V4 α Tri	3.08 2.84 2.99 3.00 2.86 3.46 3.22	3.11	M
21	00	a 6V4b	3.16	3.16	H
〃	〃	δ Per4V6 α Tri	3.29	3.29	K
21	40	a 7V3b	3.32	3.32	H

らりと晴れ、六等星及黄道光をもみとめ、眞珠を散布したかの如き星空となつた。一方月面も赤銅色に輝き海はその中に黒く沈んで見える。而して虧けた部分の區劃は曖昧である。スケッチも始めは容易なるも食甚に近づくにつれ光が暗くなり遂には全く困難となり鉛筆の先が見えなくなつてしまつた。食甚をすぎて明日の作業にそなへて観測を中止して寢に就いたが、天佑なると感嘆する好條件であつた。

次に特筆すべき事として今年になりては一月十七日 β ペルセウスの所謂アルゴ・變光星の観測を行つた。観測法としてはビツケルソングの比例法を利用した、比例法とは素人がやるに簡單で行ひ易

い法である。即變光星の近くにそれより少し大きなのと小さい星の二つの比較星をとつて、これを a と b とし a と b の差を一〇と見て變光星が其の間の何程位の所にあるかを目測するのである。中間にあれば a と b の間に近づく四分六分と見れば a と b と記す。此の場合必ず大なる星を前に書く事にする。Vの光度を精確に出さうとすれば更に別の比較星によつて同様の比較を行ひ夫れらの結果を平均する。さて比較から光度を求むるには

$$a6V4b, a=4.60等, b=4.96等とすれば$$

$$V = 4.60 + \frac{6}{10} \times (4.96 - 4.60) = 4.82等$$

これで行つた結果は次の通りである。

其の他金星の晝間探出、流星観測等實に我々の研究課題は豊富であると同時に興味あるものである。今や我が天文班は日本天文學會、東亜天文學會に加入した。今後此の方面で大いに五高の名を挙げ、龍南人諸賢の御期待にそふ心算である。

柔道部部報

文二ノ二 竹本 純 一

龍南の傳統を誇り、剛毅本訥の精神に生く柔道部は變轉極りな

き時勢に些かの動搖もなく、默々と精進してゐます。如何なる事があらうとも、唯文句無しに道場に出て弱き心を叱咤激勵し汗と應にまみれて若い故に積極的に苦闘の中に飛込んで若さを發揮してゐます。抑々柔道が單に身体の鍊磨攻防の術に過ぎないならば人は何を以て苦しんで之を學ぶか。それが精神修養の方法として偉大なる價値を有するが故に精進するのである、試合に勝たんといふより、より偉大なものをつかまん爲やるのである。昭和十八年度インターハイ中止に一層の練習を重ね、年末の休暇に、或は第三學期初めの寒稽古等凜冽たる寒風の中に一致團結して粘り

21	54	♂Per5V5KPer	3.55	3.55	K
	59	板小通過ヲ認ム			
21	40	γPer6V4KPer	3.67	3.61	M
		♂Per5V5γPer	3.52		
		♂Per4V6γPer	3.35		
		♂Per7V3KPer	2.92		
		♂Per8V2KPer	3.58		
22	00	βTri6V4γPer	3.59		
		♂Tri5V5KPer	3.79		
		γAnd9V1γPer	3.76		
22	00	♂Per2V8♂Tri	3.19	3.19	K
22	40	a 5V5 b	2.95	2.95	H
25	00	♂Per4V6γPer	2.37	2.54	M
		♂Per5V5♂Per	2.41		
		γAnd4V6♂Per	2.50		
		γAnd2V8♂Per	2.34		
		γAnd8V2γPer	2.90		
		♂Per7V3♂Per	2.74		
但シ		γAnd 2.20	♂Per 2.96	♂Ari 2.2	
		♂Per 1.90	γPer 3.08	βTri 3.08	
		♂Per 2.91	♂Per 3.10	βCas 2.42	
βAri	2.72	H = 本 田			
γPer	3.93	K = 梶 原			
KPer	4.00	M = 滿 尾			
♂Tri	3.58				